

もの言う牧師のエッセー 第157話

「The Expendables」

シルベスター・スタローンが製作し主演を演ずるアクション映画「エクスペンダブルズ」の3作目が面白い。今回の悪役は何とメル・ギブソン、さらにハリソン・フォードが胡散臭い役で出ているが、今やお爺さんになった“昭和の肉体派スターたち”の総登場はこれまでの彼ら自身を投影しているようで興味深い。“Expendable”とは使い捨てる消耗品の意味だが、おそらくこれは映画「ランボー2」でスタローンが発したセリフに由来すると思われる。要するにヒーローがミッションの為に捨て駒となって働くのだが、それは彼ら自身が米映画界のために“消耗品”となり身を粉にして働いて来たことと重なる。

さらにこの30年を振り返ると、彼は突然死で息子を失うなど不幸に見舞われたが、他にも麻薬中毒に陥った人や、最近売れていない人、警察沙汰になった人たちが多数出演している。色々あったが彼らは今お互いを尊敬し合い助け合っているようなのだ。実は同作品に出演しているシュワルツェネガーは米国移住後にウィスコンシン大などで経営学を学んだが、「スタローンの作品では彼が6割登場しているが、俺が出ている映画では俺が4割で他者が6割出ている」と、かつて80年代に冷静に分析していたことがあった。だが本作品は前述の通りスターが大勢登場するため、当然ながら彼の出番は少ない。だがそのことにより、かえって“出過ぎない”彼の抑えた演技が光っている。いや、キャスト一人ひとりが一丸となって他の出演者の顔を立て、自分の演技を控えて“消耗品”となり、結果的にそれぞれの存在感が増し、かえって良い映画が完成したと言えば言い過ぎだろうか。イエスは

「与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらいます。」ルカの福音書6章38節

とあるが、まず他者に与えることにより自分も与えられ、その結果お互いが豊かになって行くことを示された。しかも彼は自分がまず十字架にかかってまで“Expendable”となり、神の愛を示し、我らに人を愛することの大切さを教えてくださったからこそ、彼は未来永劫にヒーローなのである。神を信じへりくだり、ヒーローにならせていただこう。

2014-11-16

